

マレーシア旅行記 2024

クアラルンプール&マラッカ

2024/09/14 ~ 23

刑務所博物館



ペトロナス
ツインタワー

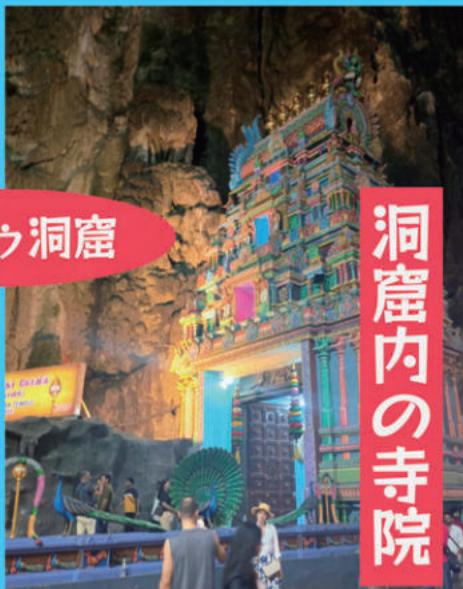


272段の石段



バトゥ洞窟

洞窟内の寺院



こんなに幸せでいいのでしょうか（食べ物が旨い）



目次

この本について	3	夕食、そして…	25
次こそはマレーシアに行こう！	4		
ホテル決定	5	PART2 マラッカ	
身体の不調でキャンセルを検討	5	2024年9月16日（月） とりあえずマラッカへ	27
マラッカ行きを含めた全日程を確定	6	深夜のホテル探しに失敗	27
		QJの家にお泊り	28
PART1 クアラルンプール（5つ星編）		見知らぬ、天井	28
2024年9月13日（金） 羽田空港から出国	10	朝食の点心	29
2024年9月14日（土） 深夜の機内食	11	DoubleTree ホテル（Melaka）	29
マレーシア入国	11	部屋チェック	30
クアラルンプール市内へ	12	オランダ広場	31
DoubleTree ホテル	12	チャイナタウン	31
ホテルの無料朝食	13	夕食のフィッシュ&チップス	32
KLCC（コンベンションセンター）へ	13	つまむものの買い出し	33
Level Up Play イベント	14	3日目終了	33
ペトロナス・ツインタワー	17	2024年9月17日（火） 朝食バフェイ	34
Grabの実績解除	17	チェックアウト	34
エグゼクティブ・ラウンジの夕食	18	刑務所博物館	35
初日終了	19	館内シアター	36
2024年9月15日（日） 洋風バフェイの朝食	20	QJと合流し、昼食	37
プキッ・ビンタンへ	20	マラッカのバスタ	38
パヴィリオン	21	クアラルンプール行きのバスのチケット完売	39
アロー通りで昼食	22	クアラルンプール行きのタクシー	39
プキッ・ビンタンをぶらぶら	23	島耕作チャンス	40
ロビーでQJと合流して出る	25	チャイナタウンに到着	40

PART3 クアラルンプール（2つ星編）

2024年9月17日（火） チェックイン	42
夕食のマトン炒飯	42
宿に戻る	43
2024年9月18日（水） 下痢発症	44
トイレが詰まる	44
昼に外出	45
関帝廟	45
セントラル・マーケット	45
有料トイレ	46
エレベーターが故障	47
食料の買い出し	47
洗濯物の遅延	48
夕食にして寝る	48
2024年9月19日（木） 朝粥	49
しばし籠城	49
鬼仔巷	50
ホテルに戻る	51
ナム・ヘオンのチキンライス	51
木曜終了	51

PART4 プタリン・ジャヤ

2024年9月20日（金） 朝粥	53
プタリン・ジャヤへの観光	53
サンウェイ・ピラミッドへ	54
ハーゲンダッツのバニラシェイク	54
アニメショップ	55
「葬送のフリーレン」英語版コミックス	55
海賊版アニメ DVD	56
Card&Hobbies 近くの食堂で昼食	57
Card&Hobbies	58
ClassRoom を探す	59
ClassRoom で明日のプレリの予約	59
ホテルに戻って、終了	60
2024年9月21日（土） 朝粥	61
LRT チャレンジ	61
The Starling のフードコート	62
ClassRoom のプレリ	63
ホテルに戻る	65
再びブキッ・ビンタンへ	66
呪術廻戦のコラボ・カフェ	66
アロー通りで夕食	67
本日の観光終了	67

COLUMN

表紙写真の解説……………	8
口絵写真の解説……………	60
食事の話……………	79

PART5 バトゥ洞窟

2024年9月22日(日) 朝粥	69
バトゥ洞窟へ	69
有料トイレに寄る	70
登山開始	70
バトゥ洞窟	71
もうちょっとだけ続くんやで	72
猿の餌場	72
下山	73
冷たいもので一息	73
Grabのピックアップ詐欺	73
カフェのバタートースト	75
ホテルに戻る	75
チャイナタウン最後の夜	77
屋台つまみ夕食	78

タイの卵ケーキ	79
マレーシア土産のチョコレート	80
ジャンボかき氷	81
マレーシア最後の夜も終了	81
PART6 帰国	
2024年9月23日(日) 最後の朝粥	83
空港へ	83
搭乗手続き	84
エアアジア遅延	85
さらばマレーシア	86
2024年9月24日(月) 羽田で夜明かし	87
帰宅	87
あとがき	88

この本について

本書は2024年の9月13日(金)～9月23日(火)に筆者がマレーシア(クアラルンプール・マラッカ)に10泊11日の観光に行った際の、いつものたのしい海外旅行記です。

期間中のリングgit (RMまたはMYR)は1RM32.8円～34.2円くらいでしたが、基本的には「RM30=千円」の感覚で各種の支払いを行いました。前は25円くらいだったんですが。

なお注釈は不要かとも思いますが、本書中で出てくる「マジック」というのはTCG「マジック・ザ・ギャザリング」のことです。

PART 1

クアラルンプール（5つ星編）



ロビーで QJ と合流して出る

DoubleTree ホテルに到着すると 18 時半過ぎ。あとは QJ が、仕事を終えて戻ってきたら合流して車でマラッカに行くだけ。QJ にホテルのロビーで待つことをメッセージで入れたうえで、ロビーのソファにのんびり座ってスマホで時間を潰します。21 時に QJ 到着。それじゃ、出しましょうかということで 2 人でフロントで荷物を回収。なぜか QJ の荷物がなかなか出てこなかったものの、それも済ませて 2 人で地下駐車場に移動して、21 時半、QJ の車でホテルを出ます。美しい夜のツインタワー。さあて、楽しいマラッカへ GO!



夕食、そして...



クアラルンプールからマラッカまでは車で 2 時間。時間も時間なのでまず夕食にしましょということで少し車を走らせ南の郊外のプタリン・ジャヤ地区のあたりの知らないところで降りました。庶民的な店です。にんじんジュースを頼み、あとは適当に QJ が頼んだものをつまみました。写真にはないけど、焼きそばも。まあ、普通に美味しい。

すでに 22 時。ここで「いけね！今夜のマラッカの宿にはチェックインは 23 時の予定だと伝えたけど、このぶんど多分日付が変わる頃にはなるよね。悪いけど QJ、ちょっとホテルに電話して遅れることを伝えてくれるかな？」と依頼します。快諾してメールの番号に電話をかける QJ。…しかしなぜか少々の言い争いらしい会話をして電話が終わります。あれ？と思った自分に対し QJ が「これから泊まる予定だった**宿がキャンセルされた**みたいです」と言ってきました。えええええ何それ、聞いてないよ！ ていうか、これからマラッカに向かうのはいいとしても、今夜いったいどこに泊まればいいんだ自分は？ オラ、ワクワクしてきたぞ！

～ クアラルンプール（5つ星編）・完 ～

PART2

マラッカ



QJ夫妻と入ったカフェなどは、もう少し北寄りなので割愛します

夕食のフィッシュ&チップス

チャイナタウンの大通りの反対側の店などをひやかしながらぶらぶら歩くと、もう 17 時。

マッサージ屋（エロなし）も何軒かあるけど今日はそれほど疲れてないなーということで見送り夕食の検討を始めます。

小綺麗な洋風カフェに「フィッシュ&チップス RM15」掲示があったのに興味を示して入ります。マラッカは英国文化圏でもあったからこういうのもありか。フィッシュ&チップスは長いこと食べてなかったもので、試してみましよう。



別に日本国内でも食べてないので、どうやら前に「フィッシュ&チップス」を賞味したのは、2016年の「GP ロンドン」に行ったとき以来の様。本場でもおいしかったです。

飲み物を勧められたので、リュックからペットボトル水を出して「これがあるので」と示したら店員は意に介した風もなく「飲み物は？」と再度尋ねてきました。「頼めよ」という先方の強い意志を感じたので「ではアップルジュースを」。なるほどここはチャイニーズスタイルの店ではなく英国紳士の店。まあ RM10 は別に高くもないので構わないのですが。



料理到着。うん、揚げたてのさっぱり白身魚フライとポテトおいしいですね。冷え冷えのアップルジュースも美味しいのでお代わりもします。税金だかサービス料高が加算されて総額 RM41.45。予想よりはだいぶ出費しましたが怒りません。英国紳士なので。

あとはぶらぶらとオランダ広場まで歩いて、普通に Grab でタクシーを呼びます。すぐ来て、すぐ乗って、まっすぐ 10 分で帰れました。総額 RM7.21。おそらくは一方通行がスムーズだった関係なんでしょうけど、やっぱりいいですね Grab。引き続き後半も使う所存で。

刑務所博物館

マラッカ観光を下調べしていて、いちばん気になっていた刑務所博物館（Prison Museum）。実際の昔の刑務所をそのまま博物館にした趣向の施設です。

「るるぶ」などには載っていないものの、ローカルレビューの星4.5。ピンと来たので優先観光予定に入れていたのですが、昨日は休館日。他の観光名所はあらかじめ昨日に回ったので、満を持しての訪問になります。入場料RM6を払って入ります。やっす！



英語の案内すらほとんどない、冷房も効いてない館内を歩きます。とはいえ見れば内容は分かりますが、ここぞとばかりに周囲の観光客に声をかけまくって、キャツキャと撮影して貰います。

ああ楽しい。来て本当に良かった。



クアラルンプール行きのバスのチケット完売

そしてバスのチケット自販機の前に。ぽぽぽと自販機を操作してから「やっぱりね…」という表情で「今日のクアラルンプール行きのバスのチケットは深夜発を含めて**全部売り切れ**」と伝えてきたQJ。えっ、そんなに細いのかこの路線！

さて、どうしよう。まさかQJにまたクアラルンプールまで車を出して貰うことなど頼めないし、タクシーを探すしかないんだらうな…2時間か。RM200くらいかかるのかな？とか思いつつ逡巡する僕らの前にすすっと寄ってきて「タクシーあるよ」と声をかけてくるおっさん。

QJによると「RM80でクアラルンプールまで行ってくれるって」とのこと。値段交渉をするでもなく即応。おっさんは「よし。では**あと4人**客を取るまで待て」とのこと。そう来たか。

とりあえず今日中にクアラルンプールに帰れそうなので、QJ夫妻には重ねてお礼を言ってここでバイバイしました。

クアラルンプール行きのタクシー

ほどなく集まった他の知らない4人（女性1人、男性3人）とともに、旅行鞆を押して駐車場へ。荷物をトランクに入れて自分は後部座席の中央に座ります。女性は助手席に座ったので、両隣を知らない兄ちゃん2人に密着してはさまれる形で14時半、楽しい2時間ドライブの始まりです。

さすがにこの状態では話がはずむものでもないので、リュックを前に抱えつつスマホを見たり、電池残量を気にして切っとうとうとしました。途中、ぐるぐると山道を回って通ったりしていたので「そっか…高速使っていないのか…こりゃ、もう少し時間がかかるかもなあ」とか思いました。

17時、途中のスタンドに寄り給油とトイレタイム。自分もそそくさとトイレを使って戻ると、1人だけ残っていた別の兄ちゃんが、自分が着席するなり、車を出てトイレに行きました。正しいですね。さすがにお互いを疑う状況ではないにしても、車上荒らしは一応警戒すべき。



PART3

クアラルンプール（2つ星編）



後半の拠点だった、チャイナタウンの周辺

2024年9月18日（水） 下痢発症

6時前に目が覚めました。ちなみにこの部屋には窓はなく真っ暗なので、小さい室内灯をつけたまま寝ていましたが、まあ熟睡。

そしてベッドの上でごろごろしているうち、下痢腹であることに気がつきます。自己診断の結果、腹痛や発熱などはないので、これは「食中毒」と病名がつくものではなく、少し食べ過ぎたとか脱水症状はこりごりなので冷たい飲みものを飲み過ぎたとか、まあそういうレベルのものであると判断。

とはいうものの数分に一度は便意を感じてトイレに入って出すという状態なので、これでは外出観光もままならないのは明らか。まあ今日は下痢が止まるまでは部屋でおとなしく寝ているしかなさそうですね。ご飯はどうしようかな…当面は絶食しかないか…？

トイレが詰まる

そして頻繁にトイレに行くのは良いとしても、やがてトイレの流れが悪くなってきて、とうとう完全に詰まってしまった。これはピンチ。試され過ぎだろうチャイナタウンの安宿。

さすがにこの状態でトイレに行けなくなったら詰むので、最悪部屋を替えて貰うことも想定しつつ、服を来てフロントへ文句を言い。

「トイレ詰まったんだけど。すぐ修理するか、部屋を替えて」
じい、まったく動じず「オーケー、10時までには直す」。

あと3時間か…ともあれ部屋で待って、今日の予定を再検討します。



と思ったら8時前にすぐ来た。やるじゃん2つ星のくせに。ほどなく水は流れるようになりました。

「トイレには紙を流さないでくれ」

「あんだすたん。いつつチャイニーズすたいる」

つまり用便後は紙でシリアナを拭かず、コレを使ってから紙で水分を拭ってゴミ箱に捨てるというということですね。だいじょーぶミャンマーでも台湾でも慣れてますよこの方式。壁に掲示が**最初からあったら**、そうしてたんですけどね。



PART4

プタリン・ジャヤ



クアラルンプール市の南西の地区

アニメショップ

モール内にアニメショップを発見。こういうのは逃さずチェック。基本的には、公式版權ものが並んでいる模様。

「葬送のフリーレン」水筒、ちょっと欲しかったかな…値段を暗算したら5千円くらいしたので見送ったけど。

さらに日本のコミックスの英訳版が多数。これも公式の版權ものだと思います。ISBNコードもついてるし。



「葬送のフリーレン」英語版コミックス



あっ「葬送のフリーレン」も発見。ネタのために第1巻だけ、とりあえず買ってみましょう。

さっそく近くのベンチでシュリンクを破って、ぱらぱら。

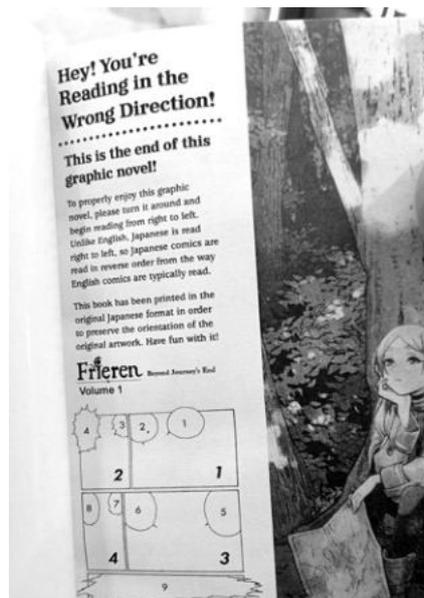
英語なのでセリフは横書きですが、日本のコミックスと同様に右綴じ左開き。

このため後ろから本を開くと「おい！こっちじゃないぞ 反対側から読むんだ」の注意書きがあってワロタ。

さらに「コマと吹き出しはこの順番で読むんだ」というガイド付きの親切設計でした。

パラパラ眺めるうち、話と話の間にある幕間1コマはどう処理してるのかな…。というのが気になりました。第1巻はそこでセリフを入れているパターンはなかったのですが、この先ではあそこにも大事セリフが入っているわけで…。

気になったら負け。さっそく第54話が載っているのは…第6巻だな、ということで店に戻って第6巻も購入。

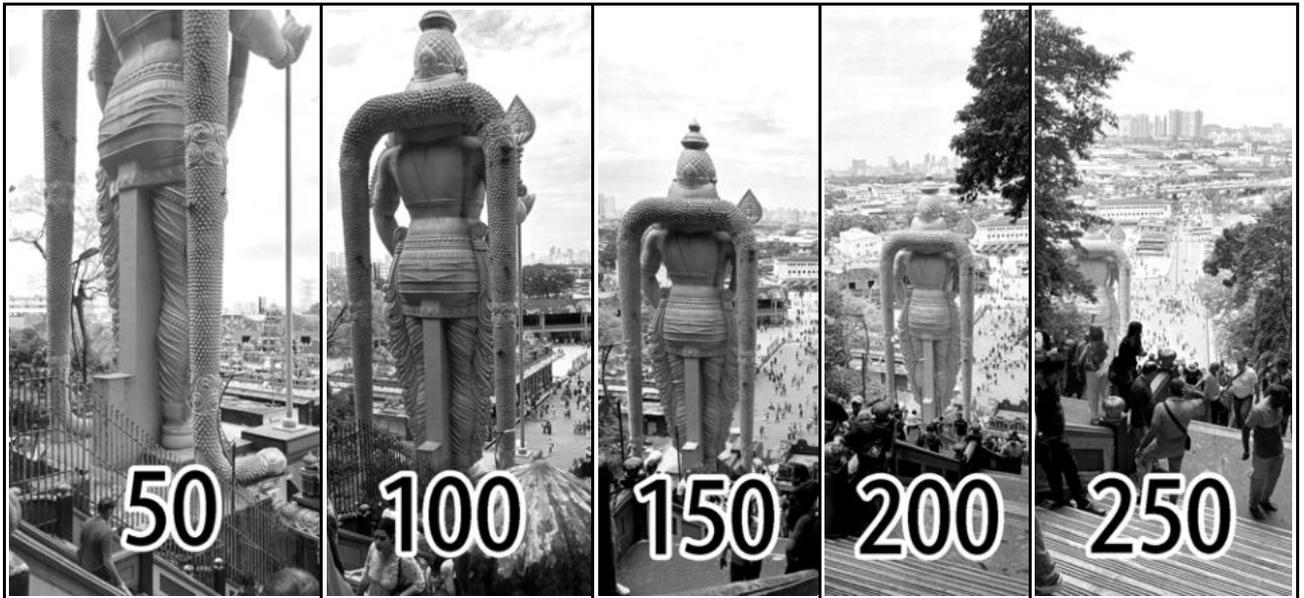


PART5

バトウ洞窟



帰りのGrabのピックアップポイントで色々トラブルになったのですが（本文参照）、眼と鼻の先にあるLRT駅に気がついていたら、こちらで帰るのが正解でしたね…というか行きもLRTで良かったかも。



そして11時47分、272段を制覇。やったー！登り切ったー！

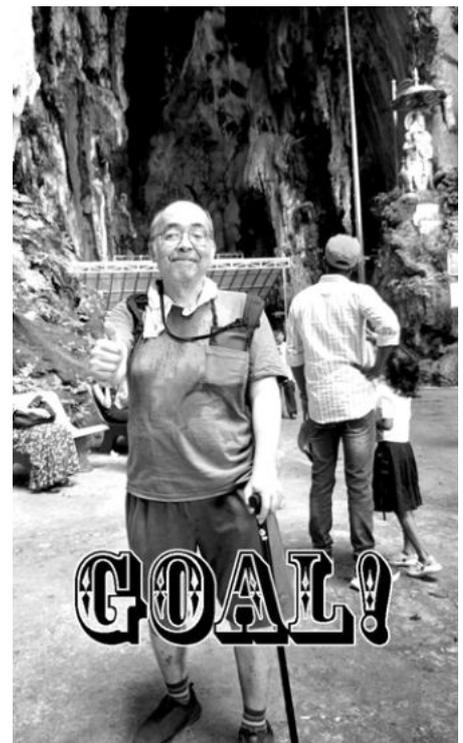
門の中に入って広場でドヤ顔で写真を撮影して貰うわたくし。さすがに汗だくですが、注意して自重しながら登ったのでふらつきもなく、心臓なども異常を訴えてきません。やったね！

バトウ洞窟

売店で飲み物を買って飲み、広場から洞窟に入ります。少しだけ洞窟の階段を下りると、洞窟内もそこそこ広大な空間。ひんやりとした空気と、ぽたぽた天井から垂れる水。



そして洞窟内にも巨大な寺院。東南アジア寺院なので電飾もキラキラ。ありがたや、ありがたや。



寺院の中にも入るには靴を脱ぐ必要などもあったので、それはスルーして外から眺めるにとどめました。

エアアジア遅延

予定では羽田行きのフライトは14時15分発であり、ゲート前も混んできましたが、まだ出発機が来ていません。ていうより搭乗する筈の**CAがヒマそう**にしています。

あー、こりゃ遅延してるね…。

そうこうするうちにスマホのバッテリー残が怪しくなってきました。帰国するなり連絡を入れるので、節電モードに移行。機内で充電できないからね…。

ていうかこの搭乗ゲート前にUSBで充電できるスポットはないんかい。係員に聞くと「あれを使っていいよ」と言われた際には**壁際のコンセント**。そこに座り込んで充電している客も。しかし例によって「マレーシアのACアダプタ」がない自分は充電できず。節電するしかないね。スマホの電源は落として、Kindle Fireを起動して「むこうぶち」を読んで時間を潰します。



そして自分の搭乗する機体が入ってきたのは14時21分。うんまあ、すでに確定で遅延。

飛行機の遅延あるあるであるにせよ、問題はもともと遅延がなくてもこのフライトは22時35分に羽田着の予定だったので、そこからは京成で青砥まで移動して帰宅の予定だったので、普通に京成終電に間に合わないかも

しれず、その場合には**羽田空港で始発まで夜を明かす**ということですね。まあ想定内の事態ではあるのですが。

ちなみに今夜中に青砥に帰れる京成の終電は23時35分の羽田空港第3発。まあイミグレや荷物引き取りがあるから、23時には羽田についてないとダメだろうね（すでにダメっぽい）。まあ、考えても仕方ないので、そのまま待ちます。

KL チャイナタウン



マラッカ・刑務所博物館



マラッカ・オランダ広場



刑務所博物館内 劇場ポスター

風使いの KARASU